

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保健Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	保健Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	保健Ⅰ		出版社	(公社) 日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	適切な美容を行うために人体の保健と皮膚科学を解剖学的ならびに生理学的に理解し、「美容実習」および「美容の物理化学」と関連させながら知識の習得する。				
到達目標	人体の基礎知識の習得を図ることによって安全で衛生的な美容の施術を實踐できる能力を育て、施術依頼者からの質問にも十分に説明できる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	保健Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式とオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	大田 将以	実務経験		○	
実務内容	生命科学の研究者として6年勤務、薬剤師として1年勤務、美容、医療、バイオテクノロジー分野の専門学校及び大学の講師として12年の勤務経験を活かし、衛生的な施術が実践できるよう知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1項 人体各部の名称
2	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学
3	第2章/骨格器系	1項 骨の種類と構造 2項 骨の連結
4	第2章/骨格器系	3項 骨格器系とそのはたらき
5	第3章/筋系	1項 筋の種類とその特徴 2項 主な骨格筋とそのはたらき
6	第3章/筋系	3項 表情筋と表情運動
7	まとめ	まとめを行う
8	解説	振り返り・解説

9	第4章/神経系	1項 神経系の成り立ち
10	第4章/神経系	2項 中枢神経とそのはたらき 3項 末梢神経とそのはたらき
11	第5章/感覚器系	1項 視覚 / 2項 聴覚 / 3項 平衡感覚
12	第5章/感覚器系	4項 味覚 / 5項 嗅覚 / 6項 皮膚感覚
13	まとめ	まとめを行う
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う
16	第6章/血液と免疫系	1項 血液のあらまし
17	第6章/血液と免疫系	2項 免疫のあらまし 3項アレルギー
18	第7章/循環器系	1項 心臓のあらまし 2項 血液循環のしくみ
19	第7章/循環器系	3項 血液の循環経路
20	第7章/循環器系	4項 リンパ管系の仕組みとはたらき
21	第6章・第7章振り返り	6章、7章の振り返り、要点解説
22	まとめ	まとめを行う
23	解説	振り返り・解説
24	第8章/呼吸器系	1項 呼吸器系のあらまし 2項 気道
25	第8章/呼吸器系	3項 肺の仕組みとガス交換 4項 呼吸運動
26	第9章/消化器系	1項 消化器系のあらまし 2項 消化管の仕組み
27	第9章/消化器系	3項 消化管のはたらき 4項 消化管と物質代謝
28	まとめ	まとめを行う
29	解説	振り返り・解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	文化論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	文化論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	文化論		出版社	(公社)日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界人として必要な理容業・美容業の歴史を学び、創造を広げるエッセンスとなる日本・西洋のファッション文化史の流れを習得する。				
到達目標	美容師国家試験(筆記)に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト: 50% 課題提出: 30% 授業態度: 20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容技術理論Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式とオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	林 司英奈	実務経験		○	
実務内容	AFTファッションカラーコーディネートを保有し、デザイナーとして25年活動の経験から、美容業界の歴史を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 総論 第1節 総論	教科、授業進行の説明。美容師に求められるものについて。用具の説明。
2	第4章ファッション文化史西洋編 第1節～第3節 古代エジプト・ギリシア・ローマ・ゲルマン	古代エジプト・ギリシア・ローマ・ゲルマンの髪型、化粧、服装について
3	第4章ファッション文化史西洋編 第4節中世ヨーロッパ	中世ヨーロッパ、16世紀の髪型・化粧・服装について
4	第4章ファッション文化史西洋編 第5節近世(16世紀) 第6節近世(17世紀)	16世紀、17世紀の髪型・化粧・服装について
5	第4章ファッション文化史西洋編 第7節近世(18世紀)	18世紀の髪型・化粧・服装について
6	第4章ファッション文化史西洋編 第8節近代(18世紀末～19世紀初め) 第9節近代(19世紀)	18世紀、19世紀の髪型・化粧・服装について
7	第4章ファッション文化史西洋編 第10節現代(1910～1920年代) 第11節現代(1930～1940年代前半)	1910～1940の髪型・化粧・服装について
8	テスト アクティブラーニング	テスト、アクティブラーニング

9	第4章ファッション文化史西洋編 第12節現代（1940後半～1950年代）	1940～1950の髪型・化粧・服装について
10	第4章ファッション文化史西洋編 第13節現代（1960年代）	1960の髪型・化粧・服装について
11	第4章ファッション文化史西洋編 第14節現代（1970年代）	1970の髪型・化粧・服装について
12	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	礼装について
13	第4章ファッション文化史西洋編 第15節現代（1980年代） 第16節現代（1990～2010年代）	1980～2010の髪型・化粧・服装について
14	総まとめ	総まとめを行う
15	テストと解説	テストと解説を行う
16	第2章 日本の美容業の歴史 第1節～第2節	第1節理容業・美容業の発生第2節江戸時代の理容業・美容業
17	第2章 日本の美容業の歴史 第3節～第4節	第3節近代の理容業・美容業第4節現代の理容業・美容業
18	第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳	縄文・弥生・古墳時代の髪型・化粧・服装について
19	第3章ファッション文化史日本編 第2節 古代（飛鳥・奈良・平安時代）	古代の髪型・化粧・服装について
20	テスト 第3章ファッション文化史日本編 第3節 第4節	テストと解説、中世・近世十の髪型・化粧・服装について
21	第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世（江戸時代）	江戸時代の女性の髪型、化粧について
22	第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世（江戸時代）	江戸時代の男性の髪型、服装について
23	第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代（明治）	明治の髪型・服装・化粧について
24	第3章ファッション文化史日本編 第7節 近代（大正）	大正、昭和（戦前）の髪型・服装・化粧について
25	テスト 第3章ファッション文化史日本編 第8節 近代（昭和20年）	テストと解説、明治、大正、昭和（戦前）の復習
26	第3章ファッション文化史日本編 第9節 現代（1945～1950年代）	昭和（戦後）の髪型・服装・化粧について
27	第3章ファッション文化史日本編 第10節 現代（1960～1970年代）	1960年代の髪型・化粧・服装について
28	第3章ファッション文化史日本編 第10節 現代（1960～1970年代）	1970年代の髪型・化粧・服装について
29	テスト解説 第3章ファッション文化史日本編 第11節 第12節	1980～2000年代の髪型・化粧・服装について
30	テスト、総まとめ	テスト、総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容技術理論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容技術理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	美容技術理論Ⅰ		出版社	(公社)日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。				
到達目標	美容師国家試験(筆記)に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容技術理論Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式とオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	柘原 成実	実務経験		○	
実務内容	美容師として16年勤務した経験に基づき、美容の技術・理論を修得させ、美容師国家試験に向けて知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション <序章 美容技術理論を学ぶにあたって>	※美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 ・美容理論について・美容技術者としての心構え・安定した姿勢、作業点と姿勢 ・作業点と姿勢 ・力の配分と姿勢 ・人体各部の名称 ・美容における頭部の区分
2	<第1章 美容用具> 1. 美容技術における用具 2. コーム	・美容の道具、器具、機械、取り扱い方 ・コームの種類と各部の名称、選定法、手入れ法・ブラシの種類、選定法と手入れ法 ・シザースの種類、各部の名称、選定法と手入れ法
3	<第1章 美容用具> 5. レザー 6. ピン類、ヘアクリップ 7. ロッド 8. ローラー	・いろいろな太さのローラー ・ホットカーラー(ローラー) ・レザーの種類と各部の名称、刃線の形態と力のかかり方、選定法と手入れ法 ・ヘアピンのいろいろ・ロッドの種類
4	<第1章 美容用具> 9. ヘアアイロン 10. ヘアドライヤー 11. ヘアスチーマー 12. 遠赤外線機	・ヘアアイロンの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・ヘアドライヤーの種類と構造 ・タービネートタイプドライヤーの構造 ・ヘアスチーマーの選定法・遠赤外線機の役割
5	<第2章 シャンプーイング> 1. シャンプーイング総論 2. サイドシャンプー 3. バックシャン	・シャンプーイングの目的、施術の内容による目的の違い、メカニズム ・シャンプー剤の成分、種類・シャンプーイングの際の注意・シャンプー技術のプロセス ・ブラッシング・ファースト、セカンドシャンプー・バックシャンプーの手順、指の動き
6	<第2章 シャンプーイング> 4. リンス、コンディショナー・トリートメント	・リンス、コンディショナー、トリートメントの役割、違い、成分 ・リンスの目的、種類、技術・コンディショナーの目的 ・ヘアトリートメントの目的、種類技術の一例
7	<第2章 シャンプーイング> 5. スカルプトリートメント 6. ヘッドスパ	・スカルプトリートメントの目的、要素、種類・頭皮のトラブルのいろいろ ・育毛剤の成分とはたらき・ノーマルスカルプトリートメント技術の一例 ・スカルプマッサージ技術の目的と手順
8	前期まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：序章～第2章】
9	<第5章 パーマネントウェーピング> 1. パーマネントウェーブの歴史と現在 2. パーマネントウェーブの理論 3. パーマ剤の分類	・パーマネントウェーブをはじめとする美容関係の歴史・毛髪の構造について ・ウェーブが形成される仕組み・パーマ剤の分類、種類

10	<第5章 パーマネントウェーピング> 4. パーマ剤に関する注意事項 5. パーマネントウェーブ技術	・使用前、操作中に関する注意事項 ～ 毛髪診断
11	<第5章 パーマネントウェーピング> 5. パーマネントウェーブ技術 6. 縮毛矯正(高温整髪用アイロン使用)	・パーマネントウェーブ技術 シャンプー ～ 縮毛矯正(高温整髪用アイロン使用)
12	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・錯覚現象を美容に生かそう・デザインの要素
13	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・デザインの原理
14	前期末まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第5章・第3章】
15	総合授業	総まとめを行う
16	<第4章 ヘアカットイング> 1. ヘアカットイングとは 2. シザーズとレザーの扱い方 3. 美容刃物 4. ヘアカットイングの正しい姿勢	・シザーズ、レザーの持ち方等・刃物の材質、材料、正しい姿勢の基本
17	<第4章 ヘアカットイング> 5. ブロッキング 6. ヘアカットイングの基礎理論 7. ベーシックなカット技法	・頭部の基礎分割線・基準となる頭部のポイント、スライスの種類・パネルと頭皮の角度・毛先が集まる位置とカットラインの関係・パネルの幅や長さでカットラインの関係・パネルの角度とシルエットの関係・ラインの設定法 ・ワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカット・セიმレングスカット
18	<第4章 ヘアカットイング> 8. シザーズによるカット技法 9. レザーによるカット技法	・シザーズによるカット技法、ストロークの分類 ・レザーによるカット技法のいろいろ、テーパーカットの分類
19	後期中間まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第4章】
20	<第6章 ヘアセッティング> 1. ヘアセッティングとは 2. ヘアパーティング 3. ヘアシェーピング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェーブ、フィンガーウェーブ時の持ち方
21	<第6章 ヘアセッティング> 4. ヘアカーリング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェーブ、フィンガーウェーブ時の持ち方 ・カール各部の名称、分類 ～ クロッキノールカール技術の一例
22	<第6章 ヘアセッティング> 5. ヘアウェーブの名称、分類 6. ローラーカーリング	・ヘアウェーブの名称、分類 ～ ローラーウェーブ ・ベースの幅と厚さ
23	<第6章 ヘアセッティング> 7. ブロードライ 8. アイロンセッティング	・ハンドドライヤーとブラシの基本操作 ・アイロンの持ち方
24	9. バックコーミング 10. アップスタイル 11. ウィッグとヘアピース	・バックコーミング・アップスタイル ・ウィッグ、ヘアピース手入れ法
25	<第7章 ヘアカラーリング> 1. ヘアカラーリング概要 2. ヘアカラーの種類 3. ヘアカラーのタイプ別特徴 4. 染毛のメカニズム	・ヘアカラーリングの歴史、種類 ～ タイプ別染毛メカニズム
26	<第7章 ヘアカラーリング> 4. 染毛のメカニズム 5. 色の基本 6. 毛髪のレベルとアンダートーン	・ヘアカラーの色選び～アンダートーン
27	<第7章 ヘアカラーリング> 7. パッチテスト 8. 染毛剤使用時の注意 9. ヘアカラーリングの道具 10. 酸化染毛剤の技術手順 11. 酸性染毛剤の技術手順	・染毛剤と皮膚炎・ヘアカラーリング専用の施術道具 ・パッチテスト・酸性染毛剤料の技術手順
28	後期末まとめ	まとめを実施し理解等の確認【範囲：第4章・第6章、第7章】
29	まとめ・解説	まとめ・解説を行う
30	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	衛生管理Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生管理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科		30
使用教材	衛生管理		出版社	(公社)日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	公衆衛生について学び、感染症と環境衛生、消毒の義務や目的など、サロンにおける衛生管理を学ぶ中で、衛生面についての理解する。				
到達目標	不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて業務をするため、個人としてだけでなく、業界を通して公衆衛生・環境衛生を業務に関連付けて説明することができる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	衛生管理Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式とオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	西澤 務	実務経験		○	
実務内容	美容師として37年の経験に基づき、公衆衛生・環境衛生を理解させ、美容師国家試験に向けて知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 公衆衛生 1章公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 健康の定義、公衆衛生の歴史、保健所の役割
2	第1編 公衆衛生 2章保健	「母子保健」
3	第1編 公衆衛生 2章保健	「成人・高齢者」
4	第1編 公衆衛生 2章保健	「成人・高齢者」
5	第1編 公衆衛生 2章 保健	「成人・高齢者」「精神保健」
6	第1編 公衆衛生 2章 保健	まとめ
7	第2編 環境衛生 1章環境衛生	1節 環境衛生の概要

8	第2編 環境衛生 2節 空気環境	空気と健康 温熱環境と健康
9	第2編 環境衛生 3節 衣装・住居の衛生	衣服の衛生
10	第2編 環境衛生 3節 衣装・住居の衛生	住居の衛生
11	第2編 環境衛生 4節上・下水道と廃棄物	上水道、下水道、廃棄物
12	第2編 環境衛生 5節衛生害虫とネズミ 6節環境保全	衛生害虫とネズミ 水質汚濁
13	まとめ	まとめ
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめ
16	第3編 感染症 1章感染症の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 健康の定義、公衆衛生の歴史、保健所の役割
17	第3編 感染症 1章感染症の総論①	人と感染症・感染症の歴史・法律、感染症の分類
18	第3編 感染症 1章感染症の総論①	人と感染症・感染症の歴史・法律、感染症の分類
19	第3編 感染症 1章感染症の総論②	病原微生物の種類と構造・環境の影響
20	第3編 感染症 1章感染症の総論②	病原微生物の種類と構造・環境の影響
21	第3編 感染症 1章感染症の総論③	感染症の予防免疫と予防接種
22	第3編 感染症 1章感染症の総論③	予防のための3原則 まとめを実施する
23	第3編 感染症 2章感染症の各論①	空気・飛沫、飲食物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
24	第3編 感染症 2章感染症の各論①	空気・飛沫、飲食物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
25	第3編 感染症 2章感染症の各論②	血液等、動物・節足動物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
26	第3編 感染症 2章感染症の各論②	血液等、動物・節足動物を介して感染する 感染症の症状、感染経路、予防対策
27	第3編 感染症 2章感染症の各論③	具体的な対策の例
28	まとめ	まとめ
29	解説	振り返り・解説
30	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ-A		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科		90
使用教材	ワインディング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題ワインディング技術について基礎を理解し習得する。				
到達目標	美容師国家試験第2課題ワインディング技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 提出物20% 授業態度10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-E				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小澤 樹里 他	実務経験	○		
実務内容	美容師として2年勤務した実務経験を基に、美容師国家試験課題について基礎を修得させる授業を展開する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）、机上セッティング、ウィッグの取り扱い、コムワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、姿勢、体の使い方、構成習得、国家試験衛生
2	ワインディング	コムワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、ブロッキング構成習得、復習強化、姿勢、体の使い方、ブロッキング計測15分
3	ワインディング	ブロッキング構成習得、復習、強化、ブロッキング計測15分～13分、センター導入 上巻き導入、姿勢・体の使い方・目線・立ち位置
4	ワインディング	ブロッキング構成、計測13分～10分、センター導入、上巻き復習・下巻き導入
5	ワインディング	ブロッキング構成、計測10分、上巻き、下巻き、センター巻き、復習、強化
6	ワインディング まとめ	ブロッキングまとめを実施する 計測10分、コムで取るブロッキング（12ブロック）導入 計測15～13分、センター強化、（センター15分）計測1本60秒、フロント導入、構成
7	ワインディング	ブロッキング（コム、12ブロック）計測10分、センター強化、（センター15分）計測1本60秒 フロント復習、強化、右バックサイド～ネープ導入
8	ワインディング	ブロッキング（コム、12ブロック）計測10～8分、センター強化、（計測センター12分～13分）計測1本約50秒、フロント、右バックサイド復習、強化、右サイド導入
9	ワインディング	ブロッキング（コム、9ブロック）計測8～6分、（センター計測11分～12分）計測1本約45秒、フロント、両バックサイド～ネープ復習、強化、サイド復習

10	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測6～5分、（センター計測10分～11分）計測1本約40秒、フロント、両バックサイド～ネップ強化、サイド復習
11	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測5～4分、（センター計測10分～11分）計測1本約40秒、フロント、右サイド復習、左バックサイド～ネップ導入
12	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測4～3分、（センター計測9分～10分）計測1本約35秒 フロント、右サイド復習、左バックサイド～ネップ復習、サイド導入
13	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測4～3分、（センター計測9分～10分） 計測1本約35秒全頭復習、左サイド復習、強化
14	ワインディング 総まとめ	ワインディング総まとめを実施する 計測ブロッキング（コーム、9ブロック）4～3分 全頭巻き35分
15	総合授業	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ-B		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-B		
				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	シャンプー教材一式 美容技術理論Ⅰ ヘアアレンジ一式、 ヘアアレンジテキスト (デジタルテキスト)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター 株式会社ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>【シャンプー】 シャンプーイングの目的と頭皮毛髪の基本的知識を習得し、 施術内容によるシャンプーイングの違いを知る。</p> <p>【ヘアアレンジ】 頭部の名称からヘアアレンジの基礎技術・現場での基礎技術を出来る様にする。</p>				
到達目標	<p>【シャンプー】 シャンプーイングの目的を理解しシャンプー技術のプロセスを身に付ける。</p> <p>【ヘアアレンジ】 ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。就職活動に必要なセルフテクニックを知る。</p>				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプー50% (総まとめ25% まとめ15% 授業態度10%) ・ヘアアレンジ50% (実技テスト30%、授業意欲20%) 				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・テクニカルヘアメイク				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「シャンプーイング」「ヘアアレンジ」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。 				
担当教員	長岡 みどり 他	実務経験		○	
実務内容	美容師として10年勤務し、ガールズコレクションなどのヘアメイク業務も担当した経験を活かし、実践的なシャンプーイング、ヘアアレンジの技術を伝授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【シャンプーイング】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認 (道具名称・扱い方・管理方法) シャンプー台の利用の仕方、シャンプー知識
2	シャンプーイング	ブラッシング、シャワーヘッドの使用法、シャンプープロセスの理解
3	シャンプーイング	シャンプーのプロセスの復習
4	シャンプーイング	プレシャンプー
5	シャンプーイング	シャンプー手順 1シャンプー
6	シャンプーイング	1シャンプー、リンス、コンディショナー、トリートメント

7	シャンプーイング	1 シャンプー、トリートメントプロセス
8	シャンプーイング まとめ	シャンプーイング まとめを実施する 1 シャンプー～トリートメントプロセス 振り返り
9	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント
10	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント
11	シャンプーイング	2 シャンプー、スカルプトリートメント・ヘッドスパ (プロセス)
12	シャンプーイング 総まとめ	シャンプーイング 総まとめを実施する 2 シャンプー、スカルプトリートメント 振り返り
13	シャンプーイング	ヘッドスパ (リラクゼーションマッサージ)
14	シャンプーイング	ヘッドスパ (リラクゼーションマッサージ)
15	総合授業	シャンプー技術振り返り
各回の展開【ヘアアレンジ】		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション、道具の使い方、 頭部のポイント、コム・ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 基礎知識、頭部名称
2	ブロッキング、ゴム結び (一束結び)、 ピニング	ブロッキング、ポニーテール導入
3	三つ編み・編み込み	ポニーテール反復練習 三つ編み・編み込み導入&練習
4	片編み込み・フィッシュボーン	片編み込み・フィッシュボーン導入&練習
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ヘアアイロン	アイロン導入
8	ヘアアイロン	アイロン反復練習
9	ホットカーラー	ホットカーラー導入
10	ホットカーラー	ホットカーラー反復練習
11	ホットカーラー・逆毛	ホットカーラー反復練習・逆毛導入
12	ホットカーラー・逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ-C		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-C		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科		90
使用教材	カット教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>【国家試験カット】美容師国家試験第1課題レイヤーカットの構成 基礎知識を習得する。</p> <p>【トレンドメイク】ショーや撮影などで施すメイク技術を身につけ、現場において実践できるようにする。</p>				
到達目標	<p>【国家試験カット】国家試験第1課題レイヤーカット技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。</p> <p>【トレンドメイク】ショーメイク、スチール撮影(メイク技術の基礎を理解し、技術ができるようになる)</p>				
評価基準	美容実習50%(総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5%) トレンドメイク50%(実技テスト30%、授業意欲20%)				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	<p>【国家試験カット】美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-D・美容実習Ⅰ-E</p> <p>【トレンドメイク】カラー&ファッション、ベーシック・パーソナルメイク・テクニカルヘアメイク</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「国家試験カット」「トレンドメイク」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。 				
担当教員	小澤 樹里 他	実務経験	○		
実務内容	美容師として2年勤務した実務経験を基に、美容師国家試験課題について基礎を修得させる授業を展開する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【国家試験カット】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認(道具名称・扱い方・管理方法)机上セッティング 道具の扱い方、シザー持ち方開閉、コムワーク、立ち位置、姿勢 ワンレングスブロッキング ワンレングスカットを実施
2	国家試験カット	道具の扱い方、姿勢、立ち位置、ブロッキング、スライスの取り方、シザーの開閉、シェービング仕方、止め方 ワンレングスカット、レイヤーカットを実施 国家試験ブロッキング導入
3	国家試験カット	基本動作(姿勢・コムの使い方・留め方)の確認・復習 国家試験ブロッキング復習
4	国家試験カット	基本動作の確認・復習(姿勢・コムの使い方・留め方・シザーの開閉) 国家試験ブロッキング復習(計測:10分~8分)・ヘムライン導入
5	国家試験カット	基本動作の確認・復習 国家試験ブロッキング復習(計測:8分)・ヘムライン復習
6	国家試験カット まとめ	まとめの実施 国家試験ブロッキング(計測:8分) ヘムライン復習 第3ブロック導入
7	国家試験カット	ブロッキング・ヘムライン、第3ブロック復習 第2ブロック導入
8	国家試験カット	ブロッキング・ヘムライン・第3ブロック・第2ブロック復習 第1ブロック導入
9	国家試験カット	ブロッキング・ヘムライン・第3ブロック・第2ブロック・第1ブロック復習 バックカット修正導入

10	国家試験カット	ブロッキング～バックカット修正までの復習（計測：25分）
11	国家試験カット	ブロッキング～バックカット修正までの復習（計測：23分）
12	国家試験カット	ブロッキング～バックカット修正までの復習（計測：21分）
13	国家試験カット	ブロッキング～バックカット修正までの復習（計測：20分）
14	国家試験カット 総まとめ	総まとめを実施する バックまでのカット（修正込み計測：20分）
15	総合授業	前期振り返り
各回の展開【トレンドメイク】		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認 ベースメイク導入、実践
2	メイクの歴史①	古代～中世～近代のメイクについて (時代背景や特徴について)
3	メイクの歴史②	年代別 20、30、40
4	年代別のメイク①	年代別 50
5	年代別のメイク②	年代別 60
6	年代別のメイク③	年代別 70、80
7	年代別のメイク④	年代別 90、2000
8	年代別のメイク⑤	年代別の技術まとめ フルメイクテスト、振り返り
9	スチールメイク①	スチールメイク(トレンド)制作(導入、実践) テーマに合わせて行う
10	スチールメイク②	スチールメイク(トレンド)制作(実践) テーマに合わせて行う
11	スチールメイク③	スチールメイク(トレンド)制作(実践) テーマに合わせて行う
12	スチールメイク④	スチールメイク(トレンド)制作(テスト) テーマに合わせて行う
13	スチールメイク⑤	テーマに合わせた作品制作
14	スチールメイク⑥	テーマに合わせた作品制作
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ-D		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-D		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科		90
使用教材	オールウェーブ教材一式 カット教材一式 衛生教材一式 改正美容師技術試験課題 衛生と技術の解説		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第1課題カットの構成を理解し、国家試験規定時間内での合格基準の技術を習得する。 美容師国家試験第2課題オールウェーブ技術について基礎を理解し習得する。				
到達目標	国家試験第1課題レイヤーカット技術、第2課題オールウェーブ技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	オールウェーブ：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5% 国家試験カット：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-C・美容実習Ⅰ-E				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「オールウェーブセッティング」「国家試験カット」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。 				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【オールウェーブセッティング】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的、評価基準、マナールール説明 教材確認(教材の名称、扱い方、管理方法)、ウィッグ事前仕込み(カット)
2	オールウェーブセッティング	ウィッグ事前仕込み(カット、パーマ)
3	オールウェーブセッティング	ウィッグ事前仕込み(カット、パーマ) ローション塗布・ウェーブの基本導入
4	オールウェーブセッティング	ウィッグ事前仕込み(カット、パーマ) 机上セッティング、道具確認 7段構成の展開図及び構成完成図の手順確認・ウェーブ基本・リッジ
5	オールウェーブセッティング	ウェーブ・リッジ復習 1段目馬蹄シェーブ、スカルプチュアカール(スライス、手順、ピニング)
6	オールウェーブセッティング	1段目復習 2段目ウェーブ、リッジ導入
7	オールウェーブセッティング	1段目・2段目復習 3段目導入(ウェーブ、リッジ、スカルプチュアカール)
8	オールウェーブセッティング	1段目～3段目 各段強化

9	オールウエーブセッティング	1 段目～3 段目 復習・強化 (計測：20分)
10	オールウエーブセッティング	1 段目～3 段目 復習・強化 (計測：20分)
11	オールウエーブセッティング まとめ	まとめを実施する 1 段目～3 段目 (計測20分) 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き導入
12	オールウエーブセッティング	1～3 段目構成、計測18分～15分 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き復習、強化
13	オールウエーブセッティング	1～3 段目構成、計測15分 右側、左側ウエーブ、リッジ、くり抜き復習、強化、計測左右各6分～5分
14	オールウエーブセッティング 総まとめ	総まとめを実施する 1～3 段目、右側・左側ウエーブ、リッジ、くり抜き計測27分
15	総合授業	後期振り返り
各回の展開【国家試験カット】		
回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認 (道具名称・扱い方・管理方法)、机上セッティング 前期再確認、シザーの持ち方、開閉、シザーワーク、コムワーク、姿勢、ボディポジション、カッティング手順再確認 国家試験衛生 これまでの復習 (バックチェックカット込み：計測20分)
2	国家試験カット	バック復習、フェイスライン、フロント導入
3	国家試験カット	バック、フェイスライン、フロント復習 サイド、チェックカット導入 カッティング手順再確認 (計測：40分)
4	国家試験カット	国家試験カット手順確認・復習・強化 (計測40分～35分)
5	国家試験カット	国家試験カット手順確認・復習・強化 (計測35分)
6	国家試験カット	国家試験カット手順確認・復習・強化 (計測35分)
7	国家試験カット まとめ	まとめを実施する (計測：35分)
8	国家試験カット	国家試験カット手順確認・復習・強化 (計測35～30分)
9	国家試験カット	国家試験カット手順確認・復習・強化 (計測35～30分)
10	国家試験カット	カッティング手順再確認・復習・計測 (カッティングのみ計測：25分 チェックカット込み30分)
11	国家試験カット	カッティング手順再確認・復習・計測 (カッティングのみ計測：25分 チェックカット込み30分)
12	国家試験カット	カッティング手順再確認・復習・計測 (カッティングのみ計測：25分 チェックカット込み30分)
13	国家試験カット 総まとめ	カッティング総まとめを実施する (チェックカット込み計測：30分)
14	国家試験カット	カッティング手順再確認・復習・計測 (カッティングのみ計測：22分 チェックカット込み28分)
15	総合授業	後期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ-E		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ-E		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	ワインディング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル VR メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター 株式会社ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ワインディング】美容師国家試験第2課題ワインディング技術を試験時間内に巻くことができ、 国家試験レベルの技術を習得する。 【トレンドメイク】ショーや撮影などで施すメイク技術を身につけ、現場において実践できるようにする。				
到達目標	【ワインディング】美容師国家試験第2課題ワインディング技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。 【トレンドメイク】ショーメイク・スチール撮影(メイク技術の基礎を理解し、技術ができるようになる)				
評価基準	ワインディング：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5% トレンドメイク：50%（実技テスト20%、提出物15% 授業意欲15%）				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	【ワインディング】美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-A・美容実習Ⅰ-C・美容実習Ⅰ-D 【トレンドメイク】カラー&ファッション、ベーシック・パーソナルメイク、テクニカルヘアメイク				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・この科目は「ワインディング」「トレンドメイク」の2領域に大別されるため、 以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【ワインディング】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的、評価基準、マナールール説明、教材確認（扱い方、管理方法） 前期復習 計測35分～32分
2	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測32分～30分 全頭の構成の強化
3	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測30分～28分 全頭の構成の強化
4	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分～26分 全頭の構成の強化
5	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分～26分 全頭の構成の強化
6	ワインディング まとめ	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分 まとめを実施する ブロッキング込み全頭（計測27分） 全頭の構成の強化

7	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.6分) 全頭の構成の強化
8	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.5分) 全頭の構成の強化
9	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.4分) 全体構成の強化
10	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.3分) 全体構成の強化
11	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.2分) 全体構成の強化
12	ワインディング	ブロッキング込み 全頭 (計測: 2.2分)
13	ワインディング 総まとめ	総まとめを実施する (全頭計測: 2.2分)
14	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測2.1分)
15	総合授業	後期振り返り
各回の展開【トレンドメイク】		
回数	単元	内容
1	ショーメイク①	立体感や骨格をとらえたメイク(導入、実践)
2	ショーメイク②	Wラインの使ったメイク(導入、実践)
3	ムービーメイク①	ムービーで行うメイク
4	ムービーメイク②	ムービーで行うメイク
5	コンテストメイク①	テーマに合わせたメイクを行う
6	コンテストメイク②	テーマに合わせたメイクを行う
7	作品作り①	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
8	作品作り②	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
9	スチールメイク①	テーマに合わせた作品制作に向けてのメイク
10	スチールメイク②	テーマに合わせた作品制作に向けてのメイク
11	スチールメイク③	テーマに合わせた作品制作に向けてのメイク
12	テスト	作品作りに合わせて、実技テストを行う
13	作品作り③	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
14	作品作り④	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	美容実習Ⅰ - F		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ - F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	-		出版社	-	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容室として現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	社会人としてマナーや敬語を使用することができる。 スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。				
評価基準	企業側評価60% 学校側評価40% (ビジネスマナー20%・各コース該当項目20%)				
認定条件	・出席が48単位時間以上(実質時間数40時間以上)の者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	-				
関連科目	就職対策Ⅰ・ビジネスマナー				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	施設実習	施設実習
2	施設実習	施設実習
3	施設実習	施設実習
4	施設実習	施設実習
5	施設実習	施設実習
6	施設実習	施設実習
7	施設実習	施設実習
8	施設実習	施設実習

9	施設実習	施設実習
10	施設実習	施設実習
11	施設実習	施設実習
12	施設実習	施設実習
13	施設実習	施設実習
14	施設実習	施設実習
15	施設実習	施設実習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスマナー		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスマナー		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	サービス接客検定公式テキスト3級 サービス接客検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける。				
到達目標	サービス接客検定3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	【前期評価】テスト50% 課題・提出物など50% 【後期評価】テスト30% 検定試験30% 課題・提出物等40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	就職対策Ⅰ、美容実習Ⅰ-F				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	内山 幸代	実務経験	○		
実務内容	国際線客室乗務員として18年間勤務し、その後はグローバルビジネスマナーインストラクターとして活躍する経験を活かし、サービス接客検定3級を合格へ導き、社会人としてのマナーを身に付けさせる授業を展開する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められるものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能（敬語）①	様々な接客用語・敬語について
6	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙譲語・二重敬語について
7	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて

8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接客者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ
16	検定対策授業	復習と練習問題
17	検定対策授業	復習と練習問題
18	検定対策授業	復習と練習問題
19	検定対策授業	復習と練習問題
20	検定対策授業	復習と練習問題
21	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
22	敬語・社会常識 SPI・時事問題 ①	就職活動に向け、筆記対策や履歴書について
23	社交文書 ①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
24	社交文書 ②	就職活動における社交文書について
25	社交文書 ③	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状について
26	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
27	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
28	実技演習①「面接練習」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
29	実技演習②「電話対応」 実技演習③「お茶出し」	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
30	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー&ファッション		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー&ファッション		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト50% 提出物等50%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目	-				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	玉木 真弓	実務経験		○	
実務内容	医療関係者向けパーソナルカラー診断のワークショップにて2年勤務した経験を元に、パーソナルカラーアナリスト、グローバルカラー講師として、色に関する知識を身につけ現場で適切な提案ができるよう伝授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色の見える仕組み、光について
4	色と光について②	眼（視覚）のしくみについて
5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成
6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成
7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて

9	配色（配色の応用、イメージ配色 他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ
16	アドバイス実践 （ファッション）	ファッションについて
17	アドバイス実践 （ヘアカラー・メイク）	ヘアカラー、メイクについて
18	アドバイス実践 （ネイル・ブライダル）	ネイル、ブライダルについて
19	総復習	検定試験に向けての総復習
20	総復習	復習と練習問題
21	検定対策授業	復習と練習問題
22	検定対策授業	復習と練習問題
23	検定対策授業	復習と練習問題
24	検定対策授業	復習と練習問題
25	検定対策授業	復習と練習問題
26	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
27	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
28	4つのグループの具体化①	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
29	4つのグループの具体化②	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
30	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラム		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラム		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	—				
関連科目	—				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	武井 亮子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	夢のスケッチブックアプリの使い方を学ぶ SANKOワークコンピテンスの理解を深める
2	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
3	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
4	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
5	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
6	言葉～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
7	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
8	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

9	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけでなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的 성공の振り返り	前期授業内容（私的 success）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
18	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
19	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを知る
20	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
21	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
22	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
23	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
24	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
25	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
26	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
27	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的 success が公的 success に先立つことを理解する
28	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ベーシック・パーソナルメイク		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシック・パーソナルメイク		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト)		出版社	株式会社ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	テスト50% 提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目	-				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	澁澤 栄華	実務経験	○		
実務内容	美容部員として5年勤務した経験を活かし、スキンケアから古メイクの技術を取得させ、メイク施術ができるように伝授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト10分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗)
5	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
7	セルフメイク	セルフメイク

8	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ&ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う
16	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
17	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
18	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
19	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
20	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
21	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
22	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする
23	苦手克服	フルメイク(苦手な場所を意識的に行う) 座学(検定筆記対策を行う) アドヴァンス検定(任意受験)対策
24	プロポーション	プロポーションについて導入、実践 アドヴァンス検定(任意受験)対策
25	錯覚	錯覚について導入、実践 アドヴァンス検定(任意受験)対策
26	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定(任意受験)対策
27	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定(任意受験)対策
28	フルメイク	フルメイクまとめテスト アドヴァンス検定(任意受験)対策
29	フルメイク	フルメイクまとめテスト/振り返り アドヴァンス検定(任意受験)対策
30	総合授業	まとめを行う アドヴァンス検定(任意受験)対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	テクニカルヘアメイク		
必修選択	選択	(学則表記)	テクニカルヘアメイク		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	メイク道具一式 ヘアアレンジテキスト (デジタルテキスト)		出版社	株式会社ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	【テクニカルヘアメイク】 頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。 【SNS・WEB・フォトスキル】 美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。				
到達目標	【テクニカルヘアメイク】 ブラッシング・ピンニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。 【SNS・WEB・フォトスキル】 顧客の共感や集客につながるメッセージや写真をTwitter、Instagram、LINE@などのSNSやWEBを通じて発信できるようになる。各コンテンツの基礎知識から運用ルールを把握、理解し、実践できるようにする。				
評価基準	【テクニカルヘアメイク】 テスト50% 提出物30% 授業意欲20% 【SNS・WEB・フォトスキル】 テスト40% 提出物30% 授業態度等30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	-				
関連科目	カラー&ファッション、美容実習Ⅰ-B、美容実習Ⅰ-E、スチール撮影知識Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	後期オリエンテーション シニヨン・土台作り/夜会巻き	シニヨン・土台作り/夜会巻き導入
2	土台の作り方 逆毛の立て方・すき毛の使用	土台(導入・練習) 逆毛・すき毛(導入・練習)
3	夜会巻①	夜会巻(導入・練習)
4	夜会巻②	夜会巻(練習)
5	夜会巻③	本夜会(導入・練習)
6	夜会巻⑤	重ね夜会・本夜会(テスト・振り返り)

7	和装・洋装スタイル①	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
8	和装・洋装スタイル②	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
9	和装・洋装スタイル③	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
10	和装・洋装スタイル④	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
11	和装・洋装スタイル⑤	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
12	和装・洋装スタイル⑥	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
13	和装・洋装スタイル⑦	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
14	和装・洋装スタイル⑧	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
15	総合授業	まとめを行う
各回の展開【SNS・WEB・フォトスキル】		
回数	単元	内容
1	WEBマーケティングとSNS	SNSアカウント運用、広告、HP、LPの役割、ペルソナの設定などの基礎知識の講義
2	Instagramマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
3	Twitterマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
4	公式LINEアカウントマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
5	Youtubeマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
6	Facebook/Tiktokなどの各種SNSについて	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
7	炎上防止と炎上があった際の対策	ケーススタディ
8	画像撮影、加工の基礎	講義+実践
9	写真の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
10	動画の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
11	ライティングの基礎	講義+実践(9回目、10回目で撮影した写真・動画を使ってSNSの更新を行う)
12	ランディングページ(LP)を作ってみよう	SNSで人気のあるLPの紹介と簡易LP構築ツールを使用したLPの作成
13	WEB・SNS広告の概要と基本思想	講義(リスティング、SNS、GDN、YDN)それぞれの効果的な活用方法と特徴
14	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法を学ぶ
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スチール撮影知識Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	スチール撮影知識Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	カメラ機材、筆記用具		出版社	—	

科目の基礎情報②

授業のねらい	写真のレイアウトやモデルのポーズ・撮影場所よっての注意点等を理解し、実践力を身につける。				
到達目標	色・光・影の出方によるメイク映えを知る。 撮影中の注意事項を理解する。				
評価基準	テスト50% 提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	—				
関連科目	カラー&ファッション、美容実習Ⅰ-B、美容実習Ⅰ-E、テクニカルヘアメイク				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【スチール撮影実習Ⅰ】

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 光と影について	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	写真のバランス・レイアウト	レイアウトやモデルのポーズについて
3	撮影光と影の使い方	オート(プログラムオート)で自由に撮影 カメラの構え方やレンズの使い方を知る
4	撮影光と影の使い方	オート(プログラムオート)で自由に撮影 露出補正を使いながら意図する明るさで撮る
5	カメラの使い方	撮影のフィードバックとレンズワークによる遠近感の変化 絞りやレンズワークによる背景のボケ方の説明
6	レフの使い方	室内でレフを使った撮影練習
7	作品作り①	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
8	作品作り②	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り

9	スチール①	テーマに合わせた作品制作に向けてポージングやライティング等準備・試し撮り
10	スチール②	テーマに合わせた作品制作に向けてポージングやライティング等準備・試し撮り
11	スチール③	テーマに合わせた作品制作に向けてポージングやライティング等準備・試し撮り
12	テスト	作品作りに合わせたテスト、振り返り
13	作品作り③	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
14	作品作り④	テーマに合わせた作品制作 作品の振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザイン		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザイン		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	—		出版社	—	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した社会人へ向けての準備をする。				
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。				
評価基準	授業態度：30% レポート・課題など（提出物）：70%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	—				
関連科目	就職対策Ⅰ・就職対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	白垣 亮太 他	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザインの授業とは
2	コース分けガイダンスについて	コース分けガイダンス告知、目的とコースの詳細説明（取得可能資格、就職先）
3	就職活動の流れ	就職活動の基本的な流れを知る、学生と社会人の違いについて
4	求人票の見方	求人票の見方を学ぶ
5	学外学習とは①	実習規定について説明、実習までの流れ
6	学外学習とは②	実習、就職活動身だしなみ
7	学外実習希望先リスト	学外実習希望先リストの書き方、企業調べの方法（夏休みの宿題）
8	身だしなみ	実習、就職活動身だしなみ／後期に向けてのスケジュール説明（写真撮影など）
9	自己分析①	自己分析について説明、実際に自己分析を実施

10	自己分析②ジョブカード	キャリアプラン作成補助シート～エピソード分析、自分史を作成しよう～
11	自己分析③	自己PRの書き方を学び、書いてみる
12	履歴書作成①	履歴書の各項目ごとに注意点の説明、下書き、希望職種別写真の撮り方を学ぶ
13	履歴書作成②	履歴書を作成する
14	校内面接について	面接指導（面接の流れ、種類、入退室までの流れの説明）
15	総合授業	まとめを行う
16	学外実習導入	実習について
17	自己PRを考える	自己PRを考える
18	実習用自己PRシートの作成①	自己PRシートの作成（下書き）
19	実習用自己PRシートの作成②	自己PRシートの作成（完成）
20	一般常識	一般常識プリント
21	一般常識	一般常識プリント
22	学外実習に向けて①	アポイントの取り方、訪問のマナー、身だしなみ 就職ガイドP34～35
23	学外実習に向けて②	実習手帳についての説明 （実習心得・サロン概要記入・守秘義務）
24	就職活動に向けて①	・就職活動のルールについて ・求人票の見方について
25	就職活動に向けて②	・就職活動のポイント ・身だしなみについて
26	就職活動に向けて③	・身だしなみチェック ・就職活動の一般常識
27	就職活動に向けて④	・履歴書の作成 ・求人検索をし、志望動機を考える
28	就職活動に向けて⑤	・履歴書の作成 ・志望動機・自己を考える
29	就職活動に向けて⑥	履歴書の作成
30	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	就職ガイドブック		出版社	株式会社ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職するうえで必要な知識や心構えを身につける。				
到達目標	就職希望サロンを明確にし、内定取得に向けての知識・心構えが身につけている。				
評価基準	テスト：50% 提出物：30% 授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	-				
関連科目	ビジネスマナー				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	白垣 亮太 他	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	社会人基礎力を試してみましょう①
2	コース分けガイダンスについて	コース分けガイダンス告知、目的とコースの詳細説明（取得可能資格、就職先）
3	就職活動の流れ	就職活動の基本的な流れを知る、学生と社会人の違いについて
4	求人票の見方	求人票の見方を学ぶ
5	学外学習とは①	実習規定について説明、実習までの流れ
6	学外学習とは②	実習、就職活動身だしなみ
7	学外実習希望先リスト	学外実習希望先リストの書き方、企業調べの方法（夏休みの宿題）
8	身だしなみ	実習、就職活動身だしなみ／後期に向けてのスケジュール説明（写真撮影など）

9	自己分析①	自己分析について説明、実際に自己分析を実施
10	自己分析②ジョブカード	キャリアプラン作成補助シート～エピソード分析、自分史を作成しよう～
11	自己分析③	自己PRの書き方を学び、書いてみる
12	履歴書作成①	履歴書の各項目ごとに注意点の説明、下書き、希望職種別写真の撮り方を学ぶ
13	履歴書作成②	履歴書を作成する
14	校内面接について	面接指導（面接の流れ、種類、入退室までの流れの説明）
15	総合授業	まとめを行う
16	学外実習導入	実習について
17	自己PRを考える	自己PRを考える
18	実習用自己PRシートの作成①	自己PRシートの作成（下書き）
19	実習用自己PRシートの作成②	自己PRシートの作成（完成）
20	一般常識	一般常識プリント
21	一般常識	一般常識プリント
22	学外実習にむけて①	アポイントの取り方、訪問のマナー、身だしなみ 就職ガイドP34～35
23	学外実習にむけて②	実習手帳についての説明 （実習心得・サロン概要記入・守秘義務）
24	就職活動に向けて①	・就職活動のルールについて ・求人票の見方について
25	就職活動に向けて②	・就職活動のポイント ・身だしなみについて
26	就職活動に向けて③	・身だしなみチェック ・就職活動の一般常識
27	就職活動に向けて④	・履歴書の作成 ・求人検索をし、志望動機を考える
28	就職活動に向けて⑤	・履歴書の作成 ・志望動機・自己を考える
29	就職活動に向けて⑥	履歴書の作成
30	総合授業	総まとめ